

令和4年度滑川町の教育について

令和4年11月21日

滑川町では「第3期滑川町教育振興基本計画」に基づき、町の教育を進めてまいります。本年度の重点施策は別紙「令和4年度滑川町教育行政重点施策」に示してあります。また、地域と一体となり、学びや元気から人の成長を促す取組として、子供の生活習慣にスポットを当て、家庭ですべきことを原点から見直し、先行き不透明な時代だからこそ、人として身に付けるべき3つの合い言葉を作成し、令和3年度から取り組んできました。

また、地域との連携を深めることにより、地域全体で子供達の成長を支えることを大切にしています。地域の関係が希薄になる中で学校、子供、家族、地域が一体となり、互いに成長できるような取組を進めています。

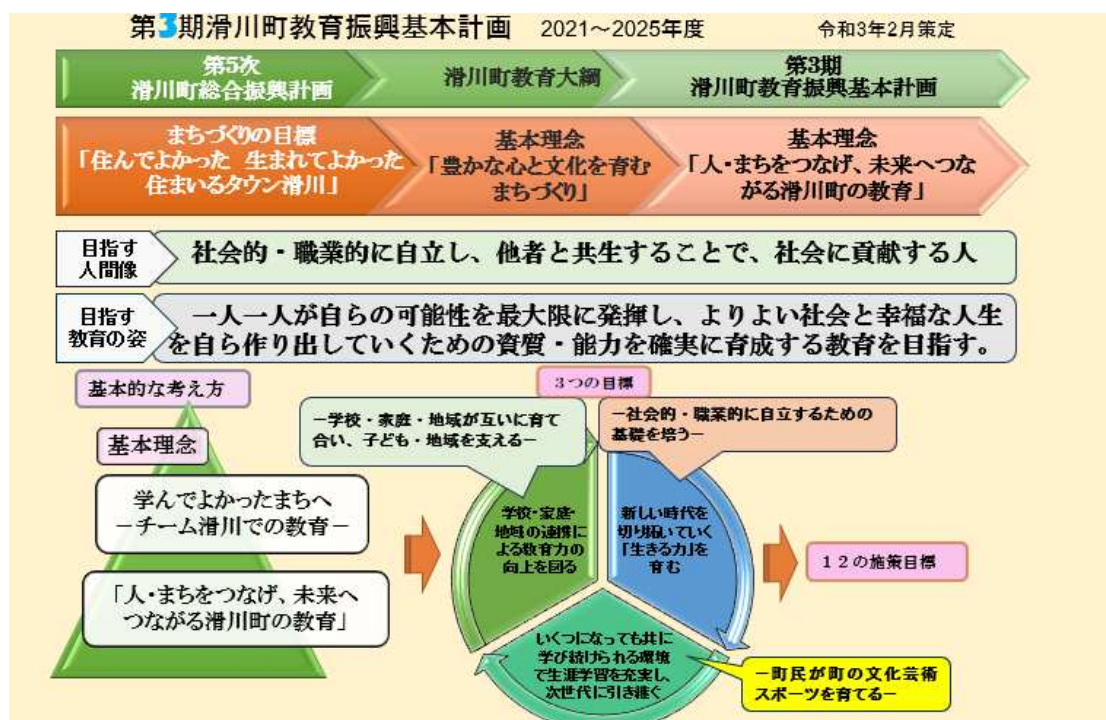
第3期 滑川町教育振興基本計画



基本理念 学んでよかったまちへ —チーム滑川での教育—
「人・まちをつなげ、未来へつながる滑川町の教育」

町への誇りと愛着を持つ人の思いをつなげ、受け継いできた古き良きものと新しい知恵・技術を、滑川町の暮らしを長く支えた沼（農業用ため池）のごとく、なくてはならないものとなるよう町民の心にしみ込ませることにより、社会的・職業的に自立し、他者と共生することで、社会に貢献する人材を育成することを目指します。

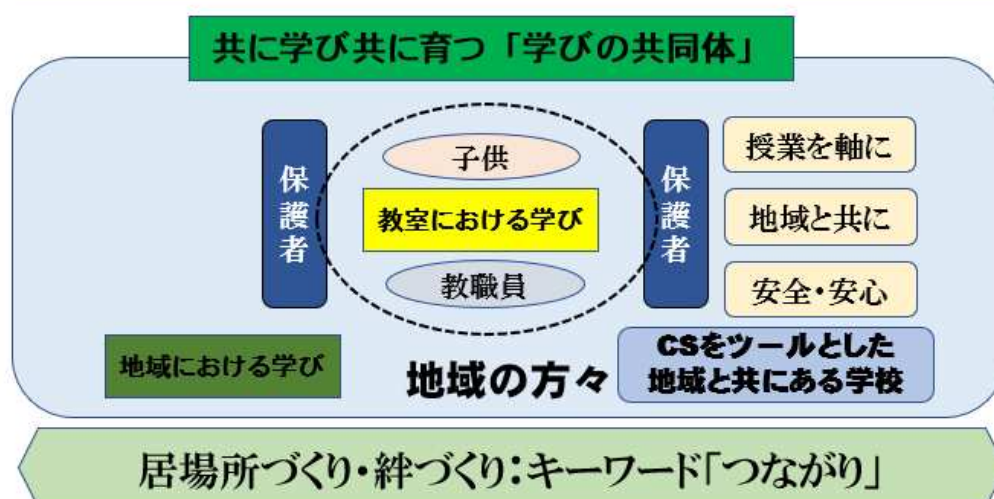
学校教育や社会教育によって育成された人材が社会を構成することで豊かで安心して暮らせる社会の実現、社会の持続的な成長・発展に結び付くものとなるよう町総がかりで、これからの滑川町の教育の未来を共に描き、創っていくための共通の指針として、策定しております。



「人・まちをつなげ、未来へつながる滑川町の教育」

社会的・職業的に自立し、他者と共生することで社会に貢献する人

一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら作り出していくための資質・能力を確実に育成する教育を目指す。



居場所づくり・絆づくり:キーワード「つながり」

「正直」「純朴」だけでは社会を生き抜くのは困難。競争力、社会性、世界観が薄っぺらいまま、子供たちをグローバル社会に放り出すことはできない。

滑川町大好き子

町の子供は町で育てる

学んでよかったまち

学ぶ場の充実

共に学び共に育つ
「学びの共同体」

人が育つ

社会に開かれた教育課程

異なる価値観に触れ、自らで自分に気付き、意見の異なるもの同士が議論をし、新たな価値に目覚めていくこと。

子供が活動するたびに、自然に異質性に触れる授業や教育活動ができる。

学校

「私はこう思う」という「我」を持ち、議論させ、新たな価値に気付く。この繰り返しの授業や活動

地域

滑川町での活動に、どれだけ参加し、異質性に触れられるかを考え、事業を推進。

学びの場

放課後子供教室、図書館教室、土曜学校を開設し、多様な学びの場を作る。

子供が将来どんな道にも進める可能性と素地を育てるのが責務。誰かに出身を聞かれたら、胸を張って「滑川町」と言える子供を育てたい。

1 基礎的生活習慣の見直し

先行き不透明な時代に対応し、人が人間らしく豊かに生きていくことが大切です。そのためには、基礎的な知識・技能、思考力はもちろんのこと、価値を見つけ、生み出す感性と力、好奇心・探究心など学校だけではなく家庭や地域と一体となって子供の成長を支えていくことが必要です。

その基盤となるものが基本的生活習慣の向上であると考えます。分かりやすく3つの合い言葉ということで設定をいたしました。

生活習慣向上のための取組

町全体で子供たちの生活習慣向上を目指すため、生活習慣向上リーフレット「みんなで取り組む、元気・学び・会話」を作成し、啓発している。

町の子供は町で育てる

みんなで取り組む、元気・学び・会話

町民の皆さん、ぜひ、子供を支える仲間になってください。子供を支えるとは、成長していただくには、おまわりが大変です。ちょっとしたおまわり方で、子供はぐんと成長します。皆さんで、「3つの合い言葉」を定めてください。

3つの合い言葉

「元気の素をつくりましょう。」

「学びの時間をつくりましょう。」

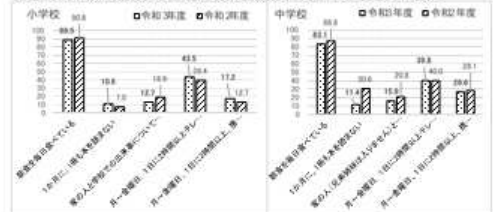
「会話を大切にしましょう。」

「なぜ」「どうして」などの素朴な疑問をもつ子供は、思考力や知的好奇心が育ちます。それに対してどうしてだろうと一緒に調べたり、「なぜ」を見つけたことを褒めたりすることで学習意欲が育まれます。そんなかわりが、子供を大きく成長させます。

令和4年度の目標

- 〇「朝ご飯を食べない子0(ゼロ)」「ゲーム・テレビ・スマホ等の時間の減少」
- 〇「1ヶ月に1冊も本を読まない子0(ゼロ)」
- 〇「家で学校のことを話さない子0(ゼロ)」の3つを目指します。

【全国学力調査及び埼玉県学力調査結果】<令和2年度と1年度の比較>



調査結果を公表している。
1. 学力向上に努める。学力向上に努める。学力向上に努める。
2. 学力向上に努める。学力向上に努める。学力向上に努める。
3. 学力向上に努める。学力向上に努める。学力向上に努める。
4. 学力向上に努める。学力向上に努める。学力向上に努める。
5. 学力向上に努める。学力向上に努める。学力向上に努める。
6. 学力向上に努める。学力向上に努める。学力向上に努める。
7. 学力向上に努める。学力向上に努める。学力向上に努める。
8. 学力向上に努める。学力向上に努める。学力向上に努める。
9. 学力向上に努める。学力向上に努める。学力向上に努める。
10. 学力向上に努める。学力向上に努める。学力向上に努める。

「3つの合い言葉」は、4つの源

「3つの合い言葉」は、4つの源

源1: 生活習慣向上の源

源2: 生活習慣向上の源

源3: 生活習慣向上の源

源4: 生活習慣向上の源

「なぜ」「どうして」などの素朴な疑問をもつ子供は、思考力や知的好奇心が育ちます。それに対してどうしてだろうと一緒に調べたり、「なぜ」を見つけたことを褒めたりすることで学習意欲が育まれます。そんなかわりが、子供を大きく成長させます。

まず1つめは元気の素をつくることです。元気は食や睡眠、学びから、そして、安定した生活から作ります。例えば、朝食を毎日食べることです。朝食を食べることで脳が活性化し、思考力や体力、さらには集中力も高めることができます。そして、このような力が備わることで豊かな心を手にすることができると思います。

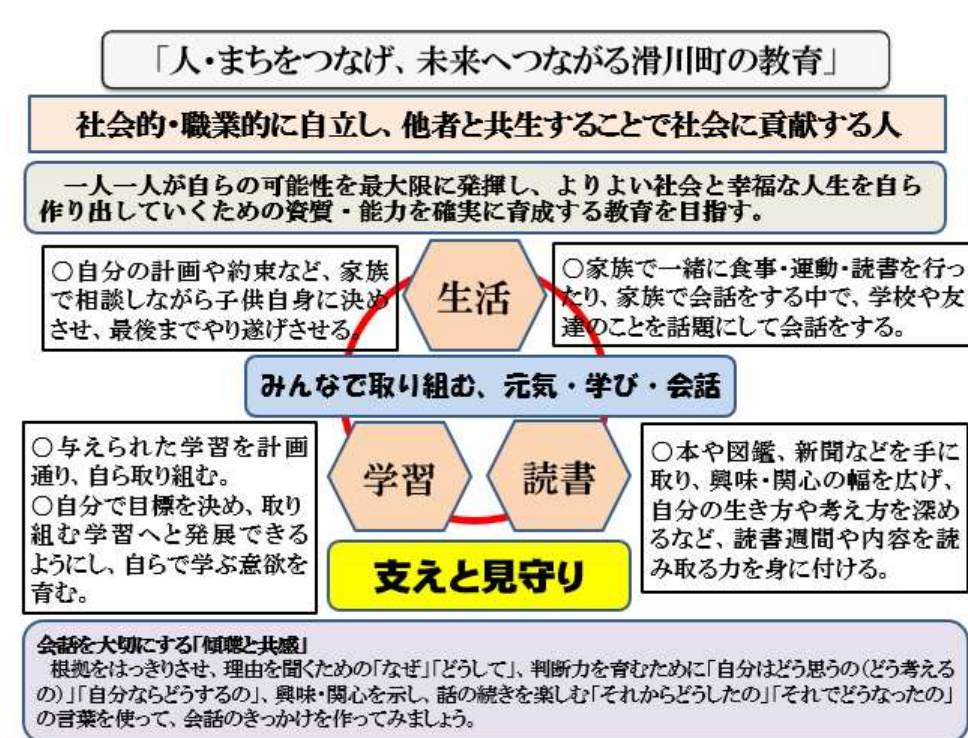
2つめは学びの時間をつくることです。学びは、学校の勉強だけではありません。生活の中に多様な学びがあります。例えば、読書の習慣化です。落ち着いて本と向き合う時間を確保することで、知識を得ることができるとともに、成長に伴いこの時間が学習時間の確保や学習の習慣化にもつながります。

3つめは会話を大切にすることです。会話をするためには、相手や情報、さらには人としての振る舞いも必要です。例えば、家の中でも家族同士であいさつや会話を増やすことにより、自己表現が進み、自分の意思をはっきりと伝える力が身につきます。

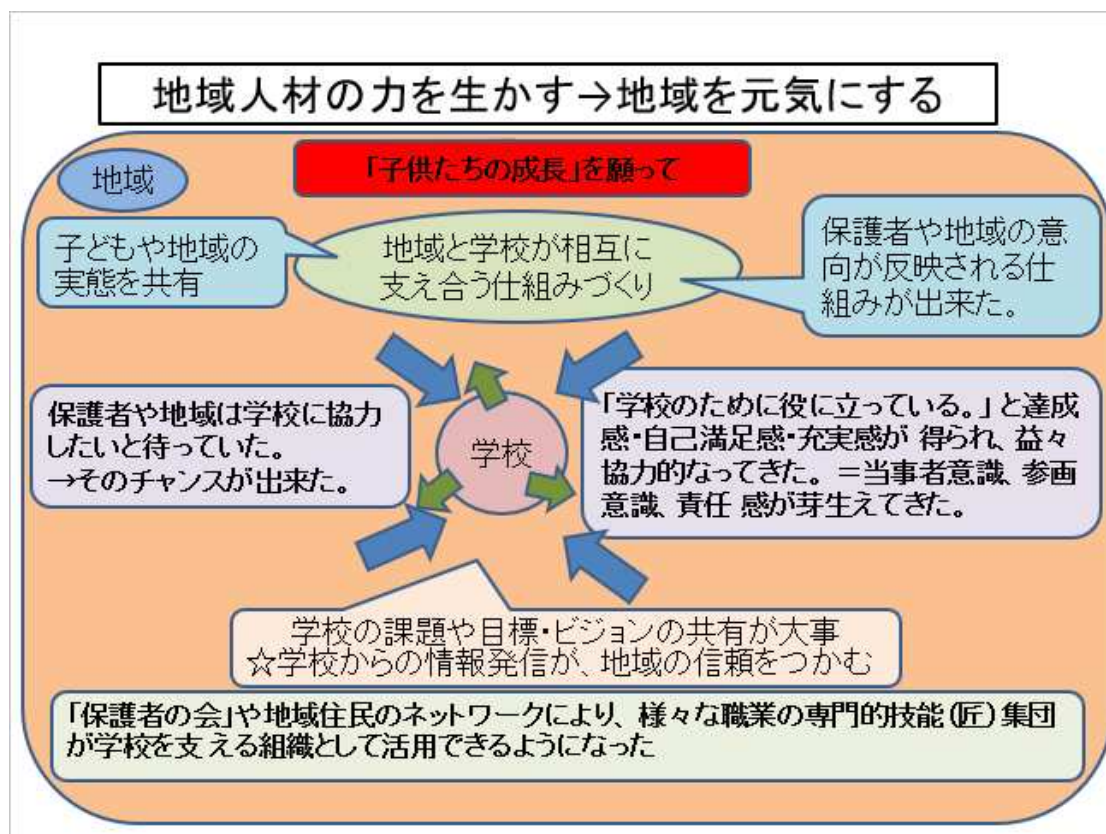
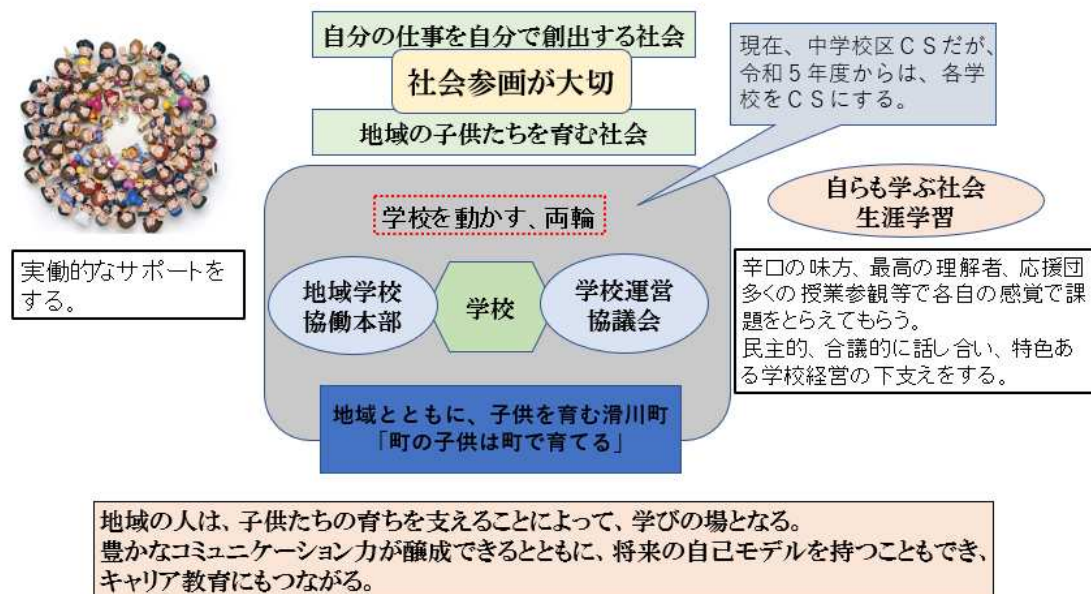
これらは家庭を核にして進めることですが、町全体で進めることで、人は大きく育ちます。コミュニケーションが希薄になりつつある今だからこそ、これらを大切にすることを進めています。

3つの合い言葉を柱として、それらが結びつき、未来をつくる子供達の育成を推進しています。

また、ここに「支えと見守り」が加わり、取組を進める中で、子供と家族がつながり、家族と学校、学校と地域がつながっていくような取組を進めていきます。



2 地域全体で子供たちの成長を支える取組



自分たちが「**当事者**」として、自分たちの
力で、学校や地域を創り上げていく...



子供たちが**誇り**を持って、**幸せ**に暮らせる
地域、子供たちが「**志**」を果たしていける
未来を創り上げていくために

地域の子供への思いも反映して欲しい
この地域の子供は...子になって欲しい。

これからの子供たちに求められる力

- 社会の激しい変化の中でも何が重要かを**主体的に判断**できる。(多様な経験)
- 多様な人々と**協働**していくことができる。(多様な人材)
- 新たな価値を創造していくとともに**新たな問題の発見・解決**につなげていくことができる。(多様な学び)

人は、人を浴びて、人になる。(子供の社会性を育む)
地域とともにある学校

これからの社会の姿



共有した目標に向かって、対等な立場の下で
ともに活動する協働関係
相互補完的に連携・協働

協働とは、同じ目的
のために、対等の
立場で協力してとも
に働くこと

学校教育目標

学校が**達成**する目標



学校と**地域**で達成する目標

自らを磨き、地域を活性化させる中学生ボランティア

ボランティア活動の基本的理念は、自発性・無償性・公共性・先駆性にある。

自立や学びにかかわる個人的な意義と、人々の連帯と協力、相互扶助によって社会がより良くなっていくという社会的意義の両面を有する。

中学生の実態

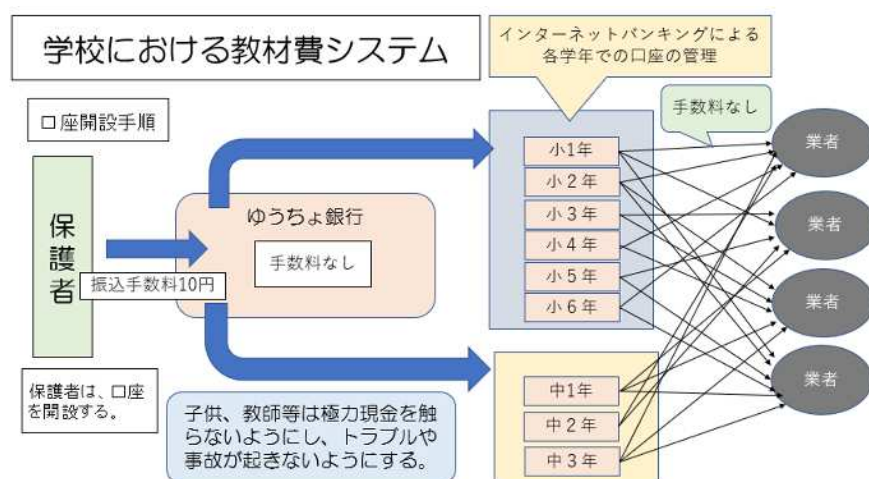
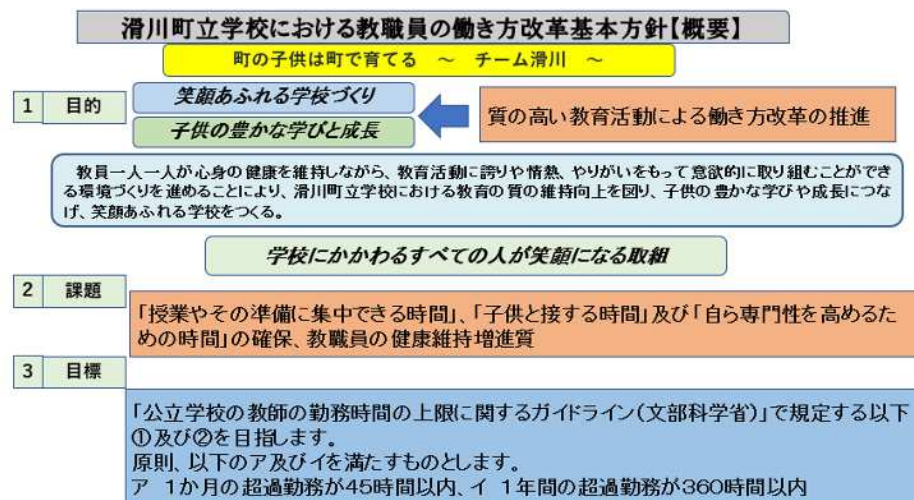
ボランティア活動に興味・関心は持つものの、経験は総じて少なく、情報不足、技術力・知識不足、相談体制の未整備、時間的制約などの理由から、ボランティア活動等に参加することを思い止まっている子が多い。

課題を踏まえ、興味・関心を持っている人に「もう一步を踏み出すきっかけ」や「もう一步を踏み出す後押し」となるような仕組みをつくとともに、大人が率先して活動に取り組み、子どもたちが活動に参加しやすいような環境をつくる。

「地域へ飛び出すボランティア」
～ 地域のためにできる第一歩 ～

- 誰かをちょっと幸せにできる
- 違う自分に出会える

3 学びを支える環境づくり



滑川町における働き方改革の取り組みについて

- 勤怠管理システムによる出退勤の管理・報告・結果の共有
- 校務支援システムによる校務の ICT 化
 - ・出欠席 ・成績 ・通知表 ・要録 ・健康の記録・日報 ・週報 等
- ストレスチェックの実施（公立学校共済組合）
- スクールサポートスタッフまたは障害者会計年度任用職員の全校配置
- タイムマネジメント週間の実施（時間外勤務時間 1 日あたり 2 時間以内）
- 小学校における専科指導、教科担任制の推進
- 学校徴収金の口座振替の実施（R5 より全校で実施（現在は中学校のみ実施））
- ふれあいデーの実施
- 計画年休の取得の推進
- 学習相談室「つばみ」（中学校）の設置

4 学校園の課題と方向性

宮前小学校



旧プールの敷地の利活用を検討していく。宮前小学校については、今後見込まれる児童増に対応するため、校舎の増築を検討する。東側プレハブ校舎を取り壊し、校舎東側に教室を増築し、児童増に対応するため教室数を確保することも検討。

福田小学校



放課後子供教室を実施する。安全安心で、地域とともに教育力を育む学校施設にする。現在の、学童保育施設と子供子育て拠点の連携や放課後子供教室との連携の中で、地域の子供を育む場としていく。小学校と子育て支援拠点の連携により、相互に教育の充実を図る。また、世界農業遺産の谷津沼農業の拠点でもあるため、ユネスコスクールに加盟したり、持続発展教育(ESD)推進拠点としたりし、世界とつながる学校へとしていくことも検討していく。これらのことを通して、特色ある学校としていきたい。

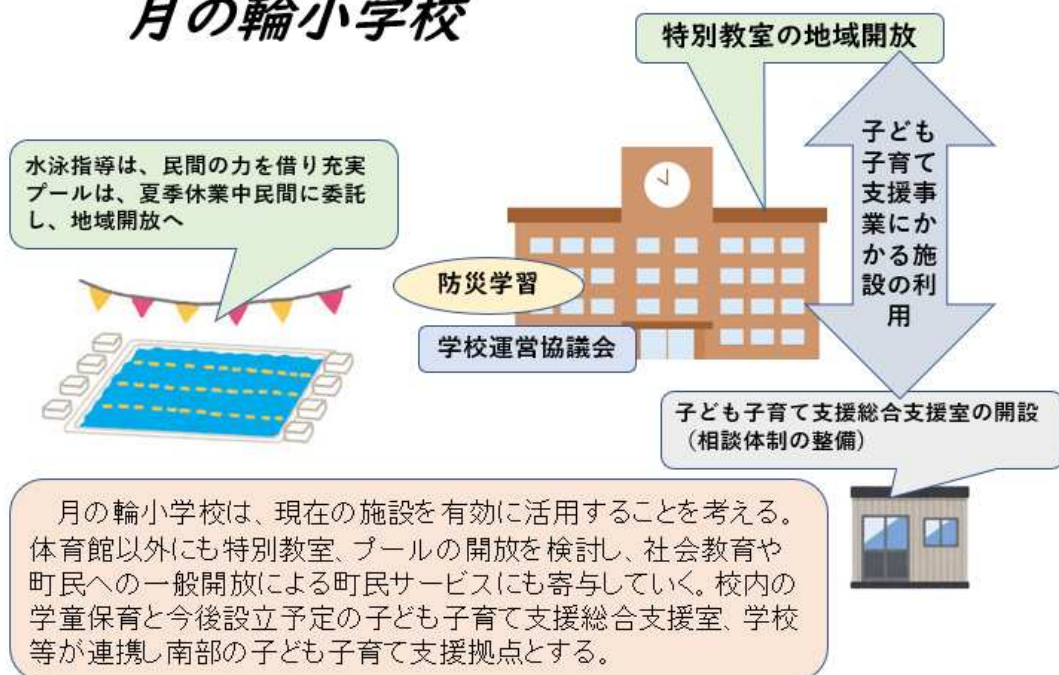
福田小学校



福田小学校を特認校(特色ある学校)とするために、地域の協力を得て、武蔵丘陵森林公園と教育委員会がコラボレーションし、里山プロジェクトの一環として、ミヤコタナゴ自然繁殖を含めたプロジェクトを立ち上げる。このプロジェクトを成功させるためには、多くの関係者の協力が必要である。このプロジェクトに学校が関わることで、子供たちは、豊かな体験ができ、多様な人材とも触れ合うことができ、さらに、福田小に豊かな学びの場が構成でき、子供の人間力の育成にもつながる。



月の輪小学校

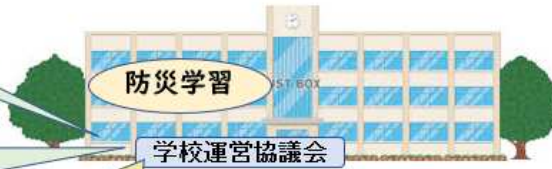


滑川中学校

相談体制の充実
相談業務の拠点

地域との連携の拠点
地域学校協働本部

地域学習
町の特色を知る、自ら地域貢献をする



滑川中学校は、教育相談拠点として機能しているため、今後も教育相談拠点として存続していく。また、今後は、地域と共にある学校作りが求められているため、地域との連携拠点としたい。地域との連携拠点については、コミュニティスクールコーディネータを配置し、常時地域と学校との連携ができるようにする。

滑川幼稚園の今後について

幼稚園が一時預かりを
しても解消できない

幼稚園在園時の状況
年少(3歳児) 55名
年中(4歳児) 50名
年長(5歳児) 71名

保育園の需要が高まり希望する
子供の数が減少傾向にある

歯止め:一時預かり
子育て支援事業導入

クラス数を絞り、園舎
を空けるとともに、一
時預かりによる園児の
確保と保育の充実

一時預かり事業を導入するとともに、
子育て支援事業を開始、また、園舎の一
部(プレハブ)を空け、学童保育へ

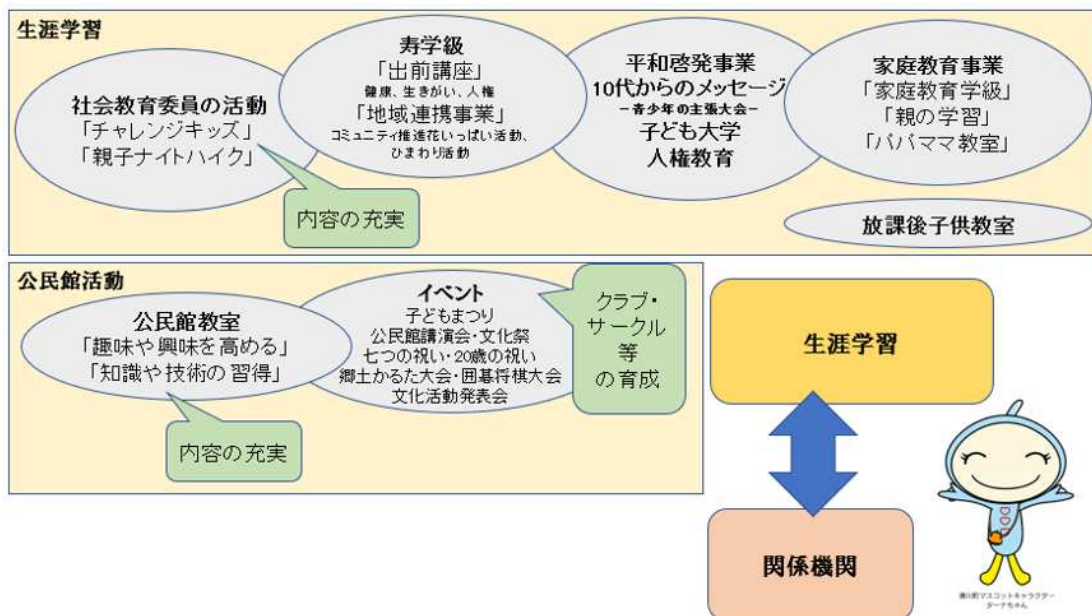
令和3年度よ
り開始

幼稚園定数
年少(3歳児) 55名: 2クラス
年中(4歳児) 65名: 2クラス
年長(5歳児) 70名: 2クラス
6クラス

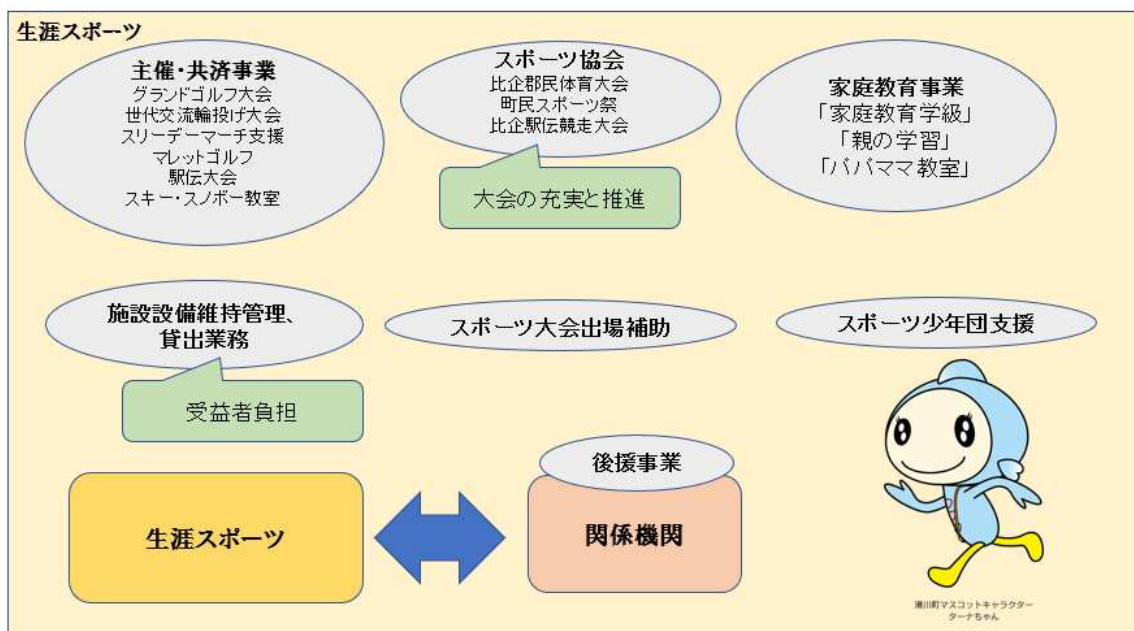


5 各担当の状況

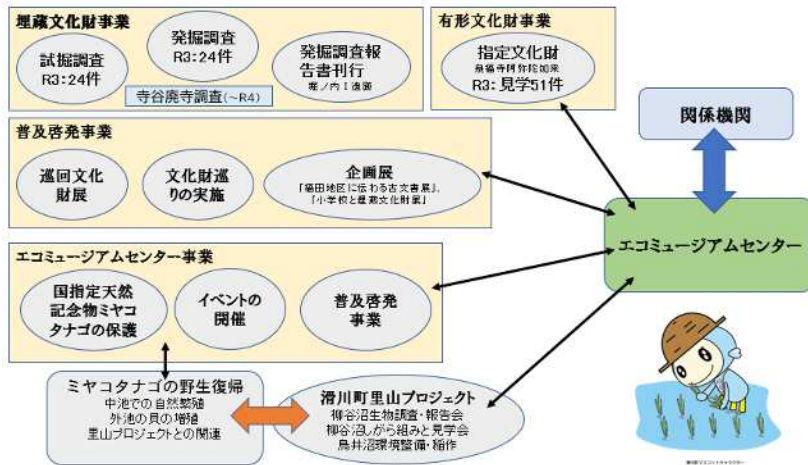
(1) 生涯学習



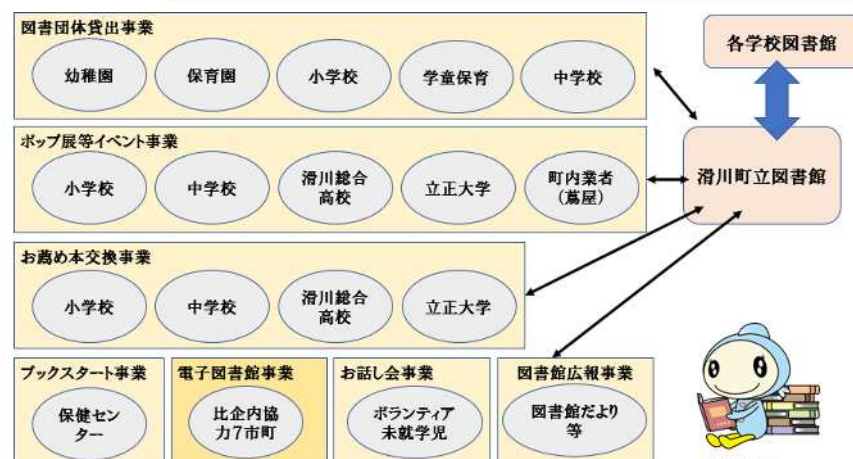
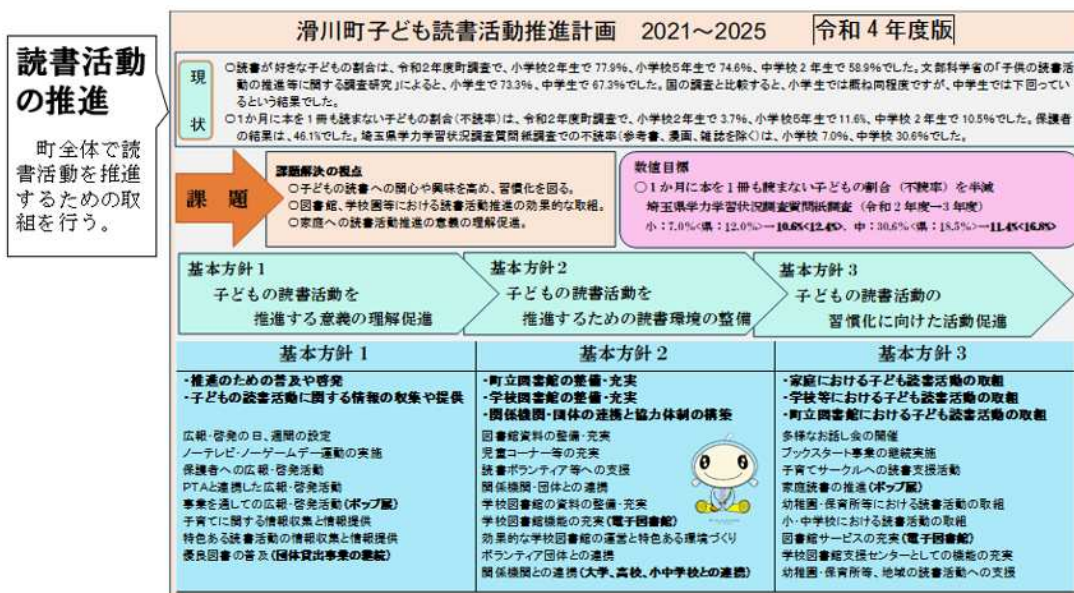
(2) 生涯スポーツ



(3) 文化財等



(4) 図書館



町民の思い

町の魚「ミヤコタナゴ」の野生復帰



そのために

- 里山管理のノウハウを森林公園と地域と共有し、質の高い管理運営を普及したい。
- 環境教育、自然体験の場など学習の場として、児童生徒のみならず、地域の人たちにも里山保全や生物の確保などの管理の仕方を森林公園と地域の有識者とともに、引き継ぎたい。
- 地域と連携した活動を充実することで、森林公園が地域の学びとなるとともに、交流の場ともなり、それが世代間交流へと広がり、地域活性化したい。

スケジュール

2021～2024 (準備期)	2025～2027 (初期)	2028～2032 (中期)	2033～2038 (後期)
沼の環境整備	ミヤコタナゴ放流	ミヤコタナゴ定着期	ミヤコタナゴ繁殖期
・ミヤコタナゴ放流予定の沼の草刈りとつつみの補修 ・里山保全と沼の調査 ・沼を地域の愛着ある場所とするためのイベント等	・ミヤコタナゴの放流検討と実施 ・地元地域と学校との連携や協働 (文化庁・環境省との協議及び許可をしっかりと取る) 近年文化庁の許可範囲外内容の実施等や無許可現状変更により首長などが文化財保護法違反で書類送検される事案が発生していると県からも釘をさされている。	・里山保全と定着調査 ・里山を活用した環境教育や自然体験教室の実施 (追跡・定着調査の具体的内容をどのようにするかを文化庁からヒアリングされるかもしれないです)	・里山保全と定着調査 ・環境教育などの教育の充実と森林公園との共同でのイベント開催